

世の中の役に立つオリジナル商品をつくり上げ 自社ブランドとして販売していきたい

東邦電器産業株式会社 代表取締役社長 長谷川 清一 氏



東邦電器産業は1962年に長谷川さんのお父様が創業されました。電気ケーブルの加工メーカーから始まり、それ以来ワイヤーハーネスや特殊部品の製造を通じて、大手電機メーカーの部品供給をすることで社内に厳しい品質管理体制を整備しながら、常に品質向上をめざし質の高い製品を作り出し、社会に貢献し続けてきました。

生き残っていくための海外進出

東邦電器産業は平成6年から香港に東邦電器有限公司を設立し、海外生産に踏み切りました。大手電機メーカーの部品生産で、コスト的に国内生産が難しくなり始めたからです。常に危機感をもっていたころ、同業他社が自社より安かったことを知ったのがきっかけでした。すでに他社は中国生産にシフトしていたのです。

すぐに香港に会社を設立し、海外生産をスタートします。何の足掛かりもなかったにもかかわらず、叔父様が試行錯誤を繰り返し、現地に滞在して道を切り開いてきました。

海外進出で大切なことは、政府の人間とつながって多くの情報を得ること。その土地の文化に合わせること。郷に入れば郷に従えであるといわれます。特に中国では、国ではなくその土地にこだわるということ。なぜならば中国は土地によって人々の気質や文化・習慣が全く異なるからです。中国人だからというひとくくりにはできないと感じたそうです。

「日本の大手電機メーカーから高い品質を要求されるなかで、その当時の海外では高い品質を求めた生産体制を追求するのは困難ではなかったですか？」との質問に対して、「日本から自動圧着機を積み出して高品質な製品が生産できる環境とワーカーへの教育環境を整備することで品質の確保に努めた」とのことです。

ゼロディフェクトをめざして「情熱を持って仕事に取り組む」・「納期・品質の安定を誇りに思う」を業務推進の指針として「どのように対処していくか？」が鍵になるのではないかと経営の根幹に触れる部分を教えていただきました。

コロナ禍における自社を取り巻く環境

幸運なことに、輸出入も滞ることがなかったので特に問

題がなく、できあがった商品も販売できたそうです。しかしやはり影響はあります。国内の受注が減少するとともに、一部の部品調達が止まってしまったことで生産調整をせざるを得なくなり売り上げに影響が出てきています。

また昨年末より、新規開拓の営業をしています。大手企業は外部からの訪問者において厳しいガイドラインがありコンタクトをとるのが難しい状況であります。同じく中国でも新規開拓の営業に取り組んでいましたが、現在のところまだ渡航制限もあり、年内は無理そうだとのことです。

しかしそこは前向きな長谷川さんならではの。日本にとどまることで社員とコミュニケーションを取る時間ができるので、社員一丸となり社内改革に取り組んでいます。

今後の事業展開におけるビジョン

せっかく、海外に目を向ける意識の高い人たちが集まる日中経済交流研究会に入会したのだから、会員さん同士でタッグを組み、何社か合同で海外進出に取り組んでみたい。工場やインフラ設備を共同でシェアしながら手配できればイニシャルコストを抑えることが可能だと考えています。

また、中国へ進出しているといっても広東省から出たことがなく、北部のことを知らないののでいろいろと情報交換をしたいと思っています。

中国のスタッフたちが日本側からのサポートがなくても、自分たちだけで営業活動ができて自分たちで稼ぐことで独立して生き残っていけるような体制をつくり上げていきたい、そして将来的には、製品加工だけではなく世の中の役に立つオリジナル商品をつくり上げて自社ブランドとして販売していきたいと大きな夢を語ってくださいました。

(文まとめ (株) Pink Rose 廣瀬みゆき)